

メープルレター（106）

ロブスター解禁

寒暖の差がジェットコースターのように激しく上がったり下がったり変化しながらも、季節は巡り、木々は緑になり、花は咲き（乱れておりませんが）モントリオールは美しい季節になりました。

何よりロブスターが解禁になり、食卓にのるようになりました。マダム田中は、ゆでたロブスターをそのまま食べ、ドリトル先生はマヨネーズをつけて食べます。新鮮なロブスターは甘味があり、そのままが美味しいとマダム田中は思っております。背中が甲羅に変わり、手ははさみに変身するのではないかと思うほど食べ続けたある日、マダム田中は、ロブスターを薄くそぎ切りにしてにぎり寿司にしてみました。残りはすし飯と一緒に海苔で包み、手巻き寿司にしてみました。このロブスター寿司がなんと美味しいこと。。。あー！やめられそうもありません。ニューブランズウィックから次男がもってきてくれ、ハンマーでたたき割ってつかんで食べた、あのロブスターには負けますが、もう少しロブスター三昧ができそうです。

この次男の嫁は、1月にアイスバーンで転んで足首を三か所骨折し、回復期にあったのですが、次男がマサチューセッツに学生たちと研究のため、千本の苗木を植えに行っ留守をしている間に、階段から滑り落ち、頭を強く打ち、脳震盪をおこし、今度は頭の具合も悪くなってしまいました。

「しばらく、どこにも行かないで」

と次男に懇願するようですが、次男の調査の続行はどうなることやら。。

こんな時の利を得た美食の日々ですが、先週末は、F1のブーンブーンとうなるレーシングカーの音が響き、同時にダウンタウンでは地元のカナディアンチームのアイスホッ

ケーの試合があり、あちらもこちらも人波と警官で溢れていました。ホッケーの試合は、ファンクラブが家族も友人も一緒になり、チームのシャツを着こみ、大変な応援の仕方です。警官も事件は放り出して、アイスホッケーの試合場の興奮した人波の整理に余念がなく、町を挙げてのお祭りです。この近所に住む人は、家にたどりつけないほどの人の波でした。

マダム田中の5月の日々は、やや騒然としていました。5月の始めは、4年ぶりに参加したいけばなインターナショナルの華道展があり、いけこみ、オープニングセレモニー、会場のボランティアなどで3-4日ほどフルタイムで活動をしていました。活けこみも、最初の意図と異なり、大きなものとなりました。活けこみは立ち続けて2時間かかる、体力的にはハードなものでした。寄る年波と体力の減退を甘く見ていたのか、疲れが残りました。オープニングセレモニーは、今回は総領事館の援助があり、公邸のシェフがお寿司やおつまみを会場で用意してくれ、美味しいお酒もでて、お客様との話にも花がさき、盛り上がりました。その翌日、翌々日は会場詰めです。キッチンで仲間たちとおしゃべりをしていることの方が多いのですが、長い1日でした。会場詰めは、昼食とデザート担当の人がいて、簡単でも美味しいサンドウィッチやサラダなどを用意してくれています。仲間同士の楽しいお祭りのような時でもありますが、高齢化や病气持ちとの仲間たちとの華道展は、これが最後になるのではないかと、いちまつの寂しさを感じながらのおしゃべりでもありました。

その2週間後、同じ日本館でお花見の行事がありました。桜の代わりに林檎の花のお花見です。お花見のお茶席に招待され、ドリトル先生とお茶を一服いただきました。日本館の中も、お茶席の周りも、押すな押すなの大変な人の波です。お茶席でお茶を飲んだり、質問したりする人も後を絶ちません。これほど日本の文化が人を引き付けるとは考えてもみませんでした。人にもまれながらも、素敵なひと時を過ごしました

と、ここまでは良かったのです。家に帰って、ハンドバッグを開くと、ない！！ないのです、私の財布が。財布が、気がつかないうちに盗まれていたのです。人の波のなかで、お茶会の人たちと話し込み、気を取られていられている年よりを狙ってのことかもしれません。深いショックで、落ち込みました。

が、ことはこれではすみません。お財布の中にはいていた、2つのクレジットカード、キャッシュカードの盗難を銀行に伝えてストップしてもらわなければいけません。長い電話と真夜中まで続く、メールのやり取りでその日は疲れ果ててしまいました。翌日は、銀行から勧められ、警察に届けを出すことにしました。不運は続くものです。この警察署の周りが大工事で、どうやっても行きつけず、たどり着くのに地下鉄の駅から30分以上ぐるぐる回っていました。警察官はさほど興味がなさそうに話をきき、

「何が入っていたの？」

「クレジットカード、現金、メディカルカードなどなど。」

「クレジットカードやメディカルカード盗難ということにします。現金は証拠がないし、戻らないだろうから。クレジットカードから引き出されていた？」

「えーいくつか。銀行に連絡してストップしてもらいましたが、その後はまだチェックしていないので。」

「それでは不正取引も加えておきます。」

かったるそうに書類に打ち込むと、事件の番号を書いたカードをくれました。それだけです、たぶんあまりにもありふれていて、何の事件性もないものなのでしょう。財布の中にはいていた現金を、宝くじに投資していたら今頃は大金持ちかもしれないと、それだけが返す返すも残念です。

その上、一緒に入っていたメディカルカードとデンタルケアカードの問題があります。翌日、翌々日は、銀行の口座のチェックと紛失したカードの再発行を巡り、また、長い電話が続きました。場所によっては2時間かかっても通じずあきらめてしまったこともあります。この日から、まる1週間は財布の盗難事件の対処に朝から晩まで追われていました。

ドリトル先生ですか、こんな時は、まるで蛇ににらまれた蛙のようです。フリーズしています。疲れきるマダム田中を眺め、ソファに黙って座り、ただ待ち続けているのです。

「何か食べる物ある？」

「残り物」

「あーそう？」

これが続くこと3日間。銀行に警察に出した盗難届けを見せ、仮のカードを出してもらい、どうにか現金だけはおろせるようになり、4日目にやっと買い物に出かける気になりました。2週間目になると、対処もだいたい終り、後は、新しいカードを待ち、やり直すことにしました。今は、銀行のカードが届き、一つ一つやり直しております。まだまだ終わっていないものもありますが、なんとか普通に暮らす気分になりつつあります。何とも疲れた5月が終わろうとしております。

